

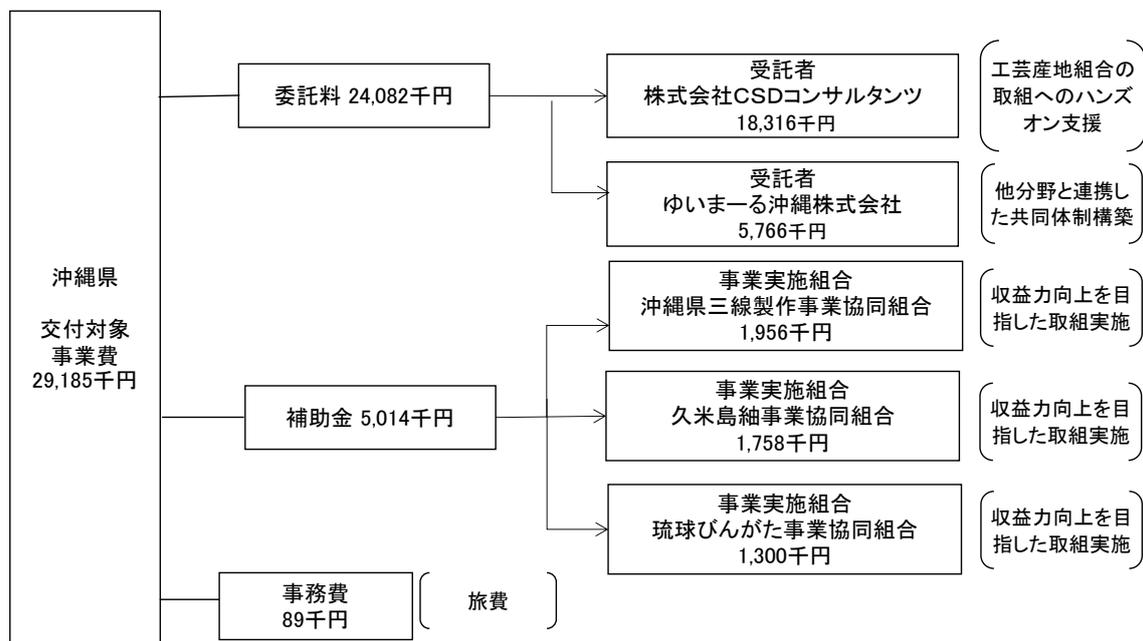
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	145	工芸産業パワーアップ事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-イ			
担当部課名	ものづくり振興課	事業実施(予定)年度	R1 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	伝統工芸品等を活用した感性型ものづくり産業の振興 Ⅲ-3-(2)		
事業内容	工芸組合に対して専門家を派遣し事業計画策定、販路開拓に関する指導を行い、販路開拓に要する取り組みに対しては補助を実施する。 工芸産業全体における製品開発や普及PRを促進するためのサポート体制を構築する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	-	-	-	-	30,966
		(b) 予算現額	-	-	-	-	30,966
		(c) 増減額(b-a)	-	-	-	-	-
		(d) 前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	30,966
	B. 執行済額		0	0	0	0	29,185
	うち交付金充当額		0	0	0	0	23,348
	C. 次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	94.2%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・予算額は、組合活性化支援に係る委託料、補助金等を計上したもの。 ・執行率は94.2%となっており、委託料及び補助金等の確定減(1,423千円)。 					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	①事業計画策定のためのハンズオン支援実施	目標				支援実施	
		実績				支援実施	
	②サポート体制構築のため協力事業者を招集する	目標				協力事業者の招集	
		実績				協力事業者の招集	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・組合活性化のハンズオン支援は業務委託で実施した。 ・サポート体制構築は業務委託で実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R3年度)
	事業計画策定指導実施数3組合	目標	-	-	-	3組合	3組合
		実績	-	-	-	3組合	3組合
	協力事業者10社	目標	-	-	-	10社	-
		実績	-	-	-	10社	-
	進捗状況説明		<p>事業計画策定指導実施数は、目標3組合に対して、実績は3件となっており目標を達成している。</p> <p>サポート体制構築は、目標10社に対して実績は10社となっており目標は達成している。</p>				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>工芸産地組合は零細で組織体制が弱く、マンパワーも不足しており、補助事業の活用もハードルが高くなっている。</p>	<p>コーディネーターによるハンズオン支援をはじめ、補助事業に取り組める体制づくりのため関係団体との連携が必要である。</p>
今後の取り組み方針		
<p>引き続きコーディネーターによるきめこまかな支援を行うとともに、組合に不足する人材やノウハウを専門家派遣やノウハウを、専門家派遣や関係機関との連携を行うことで、事業の円滑な推進を図る。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
29,742	29,185	23,348	5,837	0	0	557



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザルにより選定し選定しており妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助金対象者は、委託事業者が審査委員会を設置し、公募、申請、審査を経て3組合を選定しており、妥当であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については、事業報告書等により確認した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	146	アクティブラーニング型工芸事業力養成事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-イ				
担当部課名	商工労働部	ものづくり振興課	事業実施(予定)年度	H30 ~ R1 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	伝統工芸品等を活用した感性型ものづくり産業の振興 Ⅲ-1-(4)		
事業内容	県内工芸事業者を対象に、製品開発力を向上させる「工芸事業育成コース」及び二次加工技術を向上させる「伝統工芸活用技術コース」を実施する。 両コースにおいて、基礎情報としてカリキュラムで使用する教材データを整備する。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額			18,899		21,145	
		(b) 予算現額			18,899		21,145	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d) 前年度繰越額			0		0	
		A. 計(b+d)	0	0	18,899	0	21,145	
	B. 執行済額				17,906		19,383	
	うち交付金充当額				14,324		15,506	
	C. 次年度繰越額				0		0	
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	94.7%	#DIV/0!	91.7%	
予算の状況の説明		・予算額は人材育成に係る委託料、旅費等事務費を計上したものである。 ・執行率は91.7%であり、執行残額は委託業務の旅費、需用費等の効率化によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	人材育成の実施 ・工芸事業者育成コース(12名/年) ・伝統工芸活用技術コース(5名/年×2分野)		目標			22名	22名	
			実績			22名	22名	
			目標					
			実績					
達成状況説明	・人材育成については、2コースで22名がカリキュラムを修了した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(30年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R2年度)	
	スキルが向上した受講者の割合:80%以上		目標	80%以上		80%以上	80%以上	-
			実績	82.6%		82.6%	86.4%	-
			目標	-				-
			実績	-				-
			目標					
		目標						
進捗状況説明	・スキルが向上した受講者の割合80%以上を達成した。育成した工芸事業者は当初計画のカリキュラムを履修し、終了後の自動化が図られた。							

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・アクティブラーニングは全国的にも徐々に採用、普及が進んでおり、参考にすべき事例を調査し、よい点を本事業に取り込むことが求められる。</p> <p>・人材育成のカリキュラムでは10月の中間報告、3月の成果報告を計画していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により3月は当初の内容が実施できないなど、影響があり、成果のフィードバックが得られなかった。</p>	<p>・3密を避けるなどのソーシャルディスタンスは、アクティブラーニング手法を難しくする。これを解消する先例はなく、方法も確立されていないため、新たな内容、実施方法の構築が求められる。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>・事業は適切に執行され、当初目標を達成している。長期的には令和2年に供用が開始される、工芸の社における工芸事業者支援を見据え、カリキュラムの改善、改良を重ねていく。また、withコロナ下において、アクティブラーニング手法については、対面を避ける配席をはじめとし、対応する新しい教材作成による効率化などにより対応する。</p>		

資金の流れ							
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)							
	総事業費	交付対象 事業費	うち交付金 充当額	うち県 負担金	うち市町村 負担金	その他	交付対象外 経費
	19,383	19,383	15,506	3,877	0	0	0
<pre> graph LR A[沖縄県 交付対象事業費 19,383千円] --> B["(委託料) 17,744千円"] A --> C["(事務費) 1,639千円"] B --> D["特定非営利活動法人 沖縄県工芸産業協働センター 17,744千円"] D --- E["[アクティブラーニング型工芸事業力養成事業]"] C --- F["(報酬、共済費、旅費、需要費)"] </pre>							
資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目			評価に関する説明		
	○	支出先の選定方法は妥当か。			<p>○委託先は企画競争で事業計画、組織実績等を勘案した上で選定。委託経費の選定方法は妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模は事業内容に見合ったものであり、妥当と考える。</p>		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。					
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。					
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					